

都立大ビジネススクール

東京都立大学 大学院

経営学研究科 経営学専攻 博士前期課程

経営学プログラム

修士（経営学）

MBAProgram

MBA Program Director



東京都立大学大学院
経営学研究科 教授
経営学プログラム（MBA）
プログラムディレクター

松田 千恵子

変革と創造をリードする高度経営人材の輩出に向けて

経営学プログラム（Master of Business Administration, MBA プログラム）は、2003年4月、社会人を主な対象として都庁キャンパスに設置された高度専門職業人養成プログラムに端を発します。2016年に丸の内サテライトキャンパスに移転、2018年から現在の名称となり、内容の充実を遂げつつ今日に至っています。近年、世界経済・社会の不確実性・複雑性はますます拡大し、企業や公共部門のマネジメントを担う人材には従来にも増して高度な知識と思考力を兼ね備えることが求められています。こうした環境の変化に対応し、本プログラムでは四半世紀近くにわたって、ビジネス環境を緻密に分析し経営戦略を立案する能力、組織や制度を設計し変革する能力、そしてビジョンと高い志を兼ね備えて果断に意思決定できるマインドをもつ多くのビジネスパーソンを社会に送り出しています。

本プログラムの大きな特徴は、第一線の研究者でもある専任教員を中心にした高度な少人数教育にあります。単なるノウハウを教えるのではなく、最先端の研究成果を踏まえたマネジメントの本質に迫る授業が数多く提供され、自ら学び考える力が身につきます。本プログラムの修了には修士論文もしくは課題研究論文が必須であることも特徴の一つです。論文の執筆には総合的な思考力が問われ、並大抵のことではありません。しかし、本人の努力と教員の密度の高い指導により、多くの方が優れた論文を完成させ、その成果を実務に還元したり、更なる研究を積み重ねたりしています。

授業は丸の内サテライトキャンパスで、平日夜間及び土曜日に開講されます。同キャンパスは、交通至便な立地と最新の設備を備え、優れた教育・研究環境の中で存分に学ぶことができます。主体的に問題を発見し、課題解決力を磨きたいという意欲をもつ方々が経営学プログラムに入学され、2年間の研鑽の後にMBAを取得されて、社会や自己に新たな価値を創造できる高度な経営人材として更に高く羽ばたかれることを期待しています。

Mission

ミッション

経営学プログラム（MBA）は、産業の活性化を通じて首都東京と我が国に活力を与えていきます。そのために、科学的な思考能力を基礎とした戦略的な構想のもとで、新たな組織や制度を構築し、また既存の組織や制度を変革しうるビジネスリーダーや、学術的な課題を自ら設定して研究を遂行できる能力を持った研究者の養成を目指します。

Characteristics

特徴

高度な学び — 5つの教育研究プロジェクト —

「経営戦略」「マーケティング」「経営組織・HRM・意思決定」「会計学」「データサイエンス」の5つの教育研究プロジェクトがあり高度で徹底した教育がおこなわれています。

徹底した少人数教育

充実した専任教員体制により、講義や演習科目を提供し、丁寧な指導で修士論文等の完成に導きます。文系・理系を問わず多様な人材を受け入れます。

公立 MBA としての強み — 働きながら学べる —

東京駅至近のキャンパスで平日の夜間と土曜日を中心に学べます。都民の方は入学金が半額となります。

実務界との連携

以下の4団体より寄附講義を受け入れ、最先端のテーマに関する実践的な講義を提供しています。

公益社団法人日本証券アナリスト協会：経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅰ）

一般社団法人日本 IR 協議会：経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅱ）

一般社団法人日本 CFO 協会：事業リスクマネジメント

一般財団法人会計教育研修機構：グローバル経営財務

※講義名順

この他にも経営者とディスカッションできるビジネスイノベーション演習、実務家を講師に招いた経営学演習などを通じて実践につながる学習が可能です。

Projects

教育研究プロジェクト一覧 (2025年4月現在)

■ 出願時に選択した教育研究プロジェクトを中心として、修士論文や課題研究論文の指導が行われます。

■ 1年次には、所属する教育研究プロジェクトの担当教員の演習を受講して、理論的な研究とともに研究の方法論などを学びます。

■ 2年次に、教育研究プロジェクト担当教員から指導教員が決定され、当該教員を中心とした指導体制のもとで論文作成に取り組みます。

1. 経営戦略（松田・井口・松尾）

戦略プランニングの目的は、不確実性の高い事業環境において、企業目標となる価値を創造し、価値を獲得するための長期的な時間展開となる道筋を提示することにあります。戦略が実効性を高めるためには、なぜそのような戦略を選択するのか、企業組織に提示することによって組織メンバーを説得し、コントロールできるだけの戦略の「論理性」が必要です。経営戦略プロジェクトでは、企業の経営資源や組織能力と持続的競争優位の関係性、或いは市場との関係性に焦点をあてて、企業ケースやこれまでの学問的研究を広く展望して、企業の戦略行動についての実証的分析や理論的考察を行うことで、プロジェクトメンバーの「論理性」を養成します。

2. マーケティング（中山・水越・森・峯尾）

顧客を中心とした企業活動を行うためには、マーケティングの思想と科学的なリサーチメソッドが必要になります。このプロジェクトでは、マーケティング論を中心とした研究業績を基礎にしながら、同時に最先端のマーケティング・サイエンスやリサーチメソッドを学ぶことを通じて、顧客との長期的な関係を構築し、新たな価値を創造していく論理の理解を深めます。論文指導では、各自の問題意識に応じて、これまでの研究蓄積を踏まえた新しい論理やマーケティングの可能性を明らかにすべく、分厚い事例研究や精緻な実証研究を進めていきます。

3. 経営組織・HRM・意思決定（長瀬・加藤・佐藤・高橋）

組織と人に関わる諸問題への学術的なアプローチを体系的に学びます。組織における個人・集団及びその行動を分析対象とする組織行動論、組織能力の構築につながる人材の活用・育成・評価などを検討する人的資源管理論（HRM）、人間の現実の意思決定のありようを心理実験などから明らかにする行動意思決定論が主たるバックボーンになります。さらにそれらを基盤として、自らの問題意識にしたがって研究を進めます。論文執筆では、現在の経営環境で直面する組織やそれにかかわる人の具体的な問題について、また人間一般の心理の本質について、実証的分析や理論的考察を行います。

4. 会 計 学（野口・細海）

会計学プロジェクトでは、企業外部の関係者を情報提供のターゲットとした財務会計領域と、経営者などの内部者をターゲットとした管理会計領域、双方の研究プロジェクトを推進しています。財務会計領域では、主として、(1) 企業会計制度の特質と限界を社会経済的コンテキストに照らして分析するとともに、(2) 会計情報と企業価値の関係ならびに会計情報の資本市場における機能について実証的に分析することを課題としています。また、管理会計領域では、(3) 無形資産と企業価値の関係及びそのマネジメントについて研究を行っています。

5. データサイエンス（増山・森口・近藤・椿本・山川）

IT 革命、DX の進展に伴い、さまざまな意思決定の局面において、データにもとづいて合理的な判断を行えるデータサイエンティストの養成が文理を問わず求められています。データサイエンスプロジェクトでは、日々進化するデータサイエンスを学び続けるために必要な基礎的な数理解析力を身に付けるとともに、モデリング手法とデータ分析手法を学び、意思決定にデータを活用する技能を習得することを目的にしています。また、研究論文の作成においては、現実のシステムを数理モデルとして表現し、モデルを解析することによって課題の解決策を導き出します。

Faculty Member

専任教員一覧 (2025年4月現在)

教員氏名	主な講義科目	研究教育内容
教授 長瀬 勝彦 ^(*)	意思決定	行動意思決定論に立脚し、人間の意思決定プロセスや意思決定バイアスを研究します。広く経営心理学の領域もカバーします。授業では論理的思考を重視します。
教授 中山 厚穂	マーケティング・サイエンス	マーケティング・サイエンスの各手法を用いて、消費者の行動を計量化することでマーケティング戦略上の意思決定を行っていくための方法論について研究します。
教授 野口 昌良	財務会計	日本の会計制度の特質とそれを制約する基礎的諸条件を歴史分析の手法を用いて析出することを目標としています。
教授 細海 昌一郎 ^(*)	管理会計	現在、知的資本と企業業績・企業価値との関係、知的資本相互間の関係などについて実証的な研究を行っています。また、意思決定・業績管理に関わる管理会計上の重要なテーマについて講義およびPC演習を行います。
教授 増山 博之	応用線形代数	専門分野は応用確率論です。マルコフ連鎖を中心とした確率過程や、行列解析などを道具に、不確実性下の意思決定に関する数理的研究を行っています。最近では、確率統計・最適化・ネットワーク科学に渡る学際的な研究テーマにも取り組んでいます。
教授 松田 千恵子	経営戦略演習 財務戦略論	全社戦略、及び企業経営と資本市場の間にある諸問題を研究します。財務戦略とM&A、企業統治なども扱い、事業・財務・組織を統合して考えることを目指します。
教授 水越 康介	マーケティング・マネジメント	企業と市場の相互作用に焦点をあて、関係性構築のマネジメントを研究します。
教授 森 治憲	統計学基礎	統計学。最近の研究テーマは、近年急速に普及したベイズ法です。特に、事前分布が推定結果に与える影響を研究しています。
教授 森口 聡子	数理最適化	最適化理論、特に組合せ最適化、離散凸解析の研究をしています。数理モデルを通じて経営、社会システムにおける実問題の解決法を研究していきます。
准教授 井口 衡	経営戦略	経営者のパーソナリティ特性が企業行動に与える影響について研究しています。最近では、同族企業の戦略的意思決定に関心をもっています。
准教授 加藤 崇徳	経営学	企業経営の時間軸について研究しています。現在は、経営者の時間志向性（長期・短期）が戦略・組織に与える影響や、組織の長期的な学習プロセスなどに焦点を当てています。
准教授 近藤 伸彦	データサイエンス概論	意思決定支援のための機械学習や多目的最適化について研究しています。また、教育（人材育成）や学習を促進するための評価システムも最近の研究テーマです。
准教授 佐藤 佑樹	組織行動	専門は組織における人間の心理や行動に関する研究です。現在は、（比較的素朴な）定量的手法を用いて、職場環境の知覚（climate）や課長のリーダーシップの態度・行動への影響について研究をしています。
准教授 高橋 勅徳	ベンチャービジネス ビジネスイノベーション 演習	ベンチャービジネスを組織論の観点から研究しております。近年は、環境ビジネスとベンチャー企業をテーマにフィールドワークを行い、その成果を教育にも反映しています。
准教授 椿本 弥生	テキスト解析	テキストデータに対して機械学習や可視化を行うことで、教授学習プロセスを支援する研究をしています。教育心理学の知見も活用しながら、教育や文章産出に関する問題の解決を目指します。
准教授 松尾 隆	テクノロジー・マネジメント	製造業、サービス業の保有する技術と持続的競争優位との関係を研究しています。
准教授 峯尾 圭	消費者行動	専門分野はマーケティング・コミュニケーションです。特に、広告表現に対する消費者の反応に注目して研究しています。
准教授 山川 雄也	機械学習 プログラミング入門	専門分野は数理最適化です。特に、連続最適化における様々なクラスの問題に対して、それらの最適性条件や解を求めるための数理的手法について研究しています。最近では、データ分析や機械学習などの分野に対して数理最適化を応用する研究にも取り組んでいます。

(*) 長瀬教授、細海教授は2027年3月に定年退職予定です。

Facilities

学習環境

授業開講時間

■ 授業は平日夜間と土曜日に開講していますので、働きながら学ぶことができます。

月～金：5時限 18：20～19：50

6時限 20：00～21：30

土：1時限 10：30～12：00

2時限 13：00～14：30

3時限 14：40～16：10

4時限 16：20～17：50

平日の夜間のMBAプログラム講義は、最初の時限を5時限、次の時限を6時限と呼びます。

丸の内サテライトキャンパス

都心からのアクセスが至便で最新の設備が揃っており、授業の受講の他に自習やグループ研究の環境が整っています。

PC 教室

定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えたPCが準備されており、講義や自習に活用できます。また、日経NEEDS Financial Questなどの企業財務・金融・経済に関するデータベースも利用可能です。

図書室利用

各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした和洋専門書のほか、国内外の多数のジャーナルが開架されています。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、ビジネススクールの事務室を通じて、貸出申し込みを行うことができます。図書室や学外からEBSCOhost (Business Source Elite)、ScienceDirect、Wiley Online Library、Web of Scienceなどの各種オンライン・ジャーナルやデータベースが利用可能です。

膨大な学術文献やデータを検索、閲覧、ダウンロードして研究を進めることができます。



講義風景



共有ラウンジでの自習風景



図書コーナー

From Current Students

現役学生の声

－入学して思うこと－

食品・化学メーカー シニアマネージャー

中原 祐一 (2024 年度入学)

【入学の動機】

変化の激しい社会情勢の中で、経営学を基礎から実務まで幅広く学ぶことで、社会課題の解決を通じて経済的な価値を創出できる「課題解決力」を身につけた人財になりたいと考えたためです。私は現在、企業の長期的な成長を支える研究開発や、それを事業化につなげる戦略策定に携わっています。これまでは主に研究者として研究開発のマネジメントに注力してきましたが、事業化に向けた戦略の立案・実行を進める中で、解決すべき課題に直面する機会が増えてきました。その際、独学で学んだフレームワークを活用していましたが、「なぜそれを使うのか」という根本的な理解が不十分で、納得感を持ってない場面も少なくありませんでした。そこで、経営学の理論を体系的に学び、多様な課題に対して確かなアプローチで解決していける人財になることを目指し、ビジネススクールへの入学を決意しました。

【入学して思うこと】

さまざまなバックグラウンドを持つ仲間と共に学ぶ中で、日々「自分自身の成長」を実感しています。都立大 MBA コースでは、人的資本管理、組織、意思決定、イノベーションといった企業の基盤を支える領域から、マーケティング、財務戦略、リアルオプションなど企業成長を支える科目まで、幅広いカリキュラムが用意されています。さらに、ロジカルライティングなど個人スキルの向上を目的とした科目も充実しており、ビジネスパーソンとして総合的に力を伸ばすことができています。修了要件として課される修士論文（課題研究論文）では、定量・定性分析やデータサイエンスなど、研究に必要な手法を学ぶ講義に加え、研究の問いを深めていくためのゼミも充実しており、学びを実践に結びつける環境が整っています。また、同級生との交流も大きな刺激となっています。少人数制ながら、様々な企業とともに公務員の方も多く在籍しており、年齢や経験の多様性が際立っています。授業内で行われるグループワークやディスカッションでは、異なる視点や経験を持ち寄りながら課題に取り組むことで、多くの気づきと学びを得ています。

【これから入学を検討している方へ】

社会課題を解決し、持続可能な社会を築くためには、変化する社会の流れを正しく捉え、実践的な解決へと導く人財の重要性が、今後ますます高まっていくと感じています。特に、サイエンスや技術を理解し、それを社会課題の解決に結びつけられる人財には、国内外を問わず大きな活躍の機会が広がっていると感じます。一方で、私自身は理系出身ということもあり、「経営学の授業についていけるのか」と不安もありましたが、熱意ある先生方のご指導や、切磋琢磨できる仲間の存在のおかげで、多くの学びを得ることができています。都立大の MBA コースは、さまざまな課題に対応するための基礎理論から応用までを体系的に学べる、非常に貴重な場だと実感しています。特に理系出身の方にとっては、技術的な専門性に加え、経営学という新たな視点を得ることで、さらなる専門性の深化につながる絶好の機会です。「経営学の理論をしっかりと学びたい」「ビジネスの現場で役立つ実践的な知識を得たい」といった方にとって、都立大 MBA コースは視野を広げるだけでなく、実践的な思考力を高める素晴らしいチャンスになると思います。

国家公務員

鈴木 絵理子 (2024 年度入学)

【入学の動機】

新規事業創造やイノベーションの推進について検討する部署に所属するなかで、自身の経営的な知識の不足により、実態に即した立体的な視点を持っていないことを痛感していました。この障壁を乗り越えるために、経営の仕組みやファイナンス思考、経営組織についての知見を養いたいと考えました。特に、持続的な資金循環をつくり出す政策を構想するには、経営戦略的思考やファイナンスの知識、また、その知識の適切なアウトプット能力の両方が不可欠であり、それらを体系的に学ぶ場として MBA 進学を決意しました。なかでも都立大ビジネススクールへの進学を希望した理由は、少人数制ゆえに濃密な対話ができる環境が整っている点と、修士論文に重点をおくカリキュラムで「問いを立てて、検証し、言語化する力」を養える点に強く魅力を感じたからです。将来的には、経営的な視点をもつゼネラリストとして、社会と経済の橋渡しをする人材になりたいと思い、入学を目指しました。

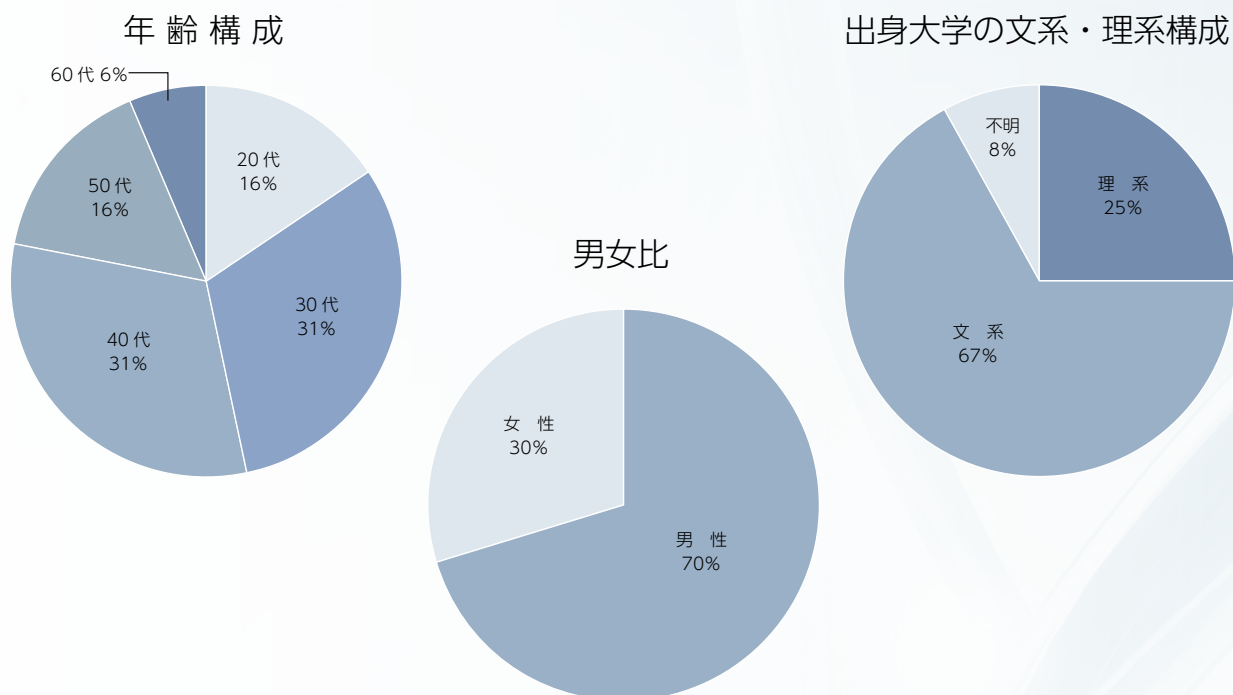
【入学して思うこと】

入学して、自分自身の「学ぶ意欲」が大きく変化しました。経営学概論を始め、HRM や財務戦略、マーケティングなど、体系的に経営学を学ぶ中で、知的好奇心が刺激され、学ぶことの楽しさを実感するようになりました。また、少人数制ということもあり、双方向的な授業が多く、能動的に授業に参加できます。それによって、向上心が一層高まり、学ぶ意欲の向上につながっていると感じています。加えて、他業種・他分野から集まった多様なバックグラウンドを持つクラスメイトとの議論や情報交換は、学びをより立体的なものにし、大きな刺激となっています。都立大ビジネススクールで出会った志の高いクラスメイトの存在が、日々のモチベーションにつながっています。さらに、授業で得た知識が直接的に日々の業務と結びつき、実務への理解へと繋がることはビジネススクールの醍醐味だと思います。学術的な理論に裏打ちされた思考をもとに業務へ臨むことで、仕事への納得感とモチベーションの向上を実感しています。学びと実務が相互に補完し合う環境に身を置けていることは、非常に有意義な経験になっていると感じています。

【これから入学を検討している方へ】

入学前は、仕事と学業の両立が果たして可能なのか、授業についていけるのか、不安に思うことも多くありました。しかし、実際に入学して感じたことは、都立大ビジネススクールは「学びたい」という意志に対して非常に誠実で、支えてくれる先生方やクラスメイトがいるという安心感です。限られた時間のなかでも真剣に学ぶ人が集まる場だからこそ、自然と自分も高いモチベーションを維持でき、学びを楽しめるようになりました。また、社会人になってから改めて学ぶ経営学は、実務と密接に結びついており、すぐに現場で活かせる知識もあります。私は、入学してから勉強すること自体を、より前向きに捉えられるようになり、学びと仕事が互いに補完し合うような実感を得ています。これまでの経験や日常業務を、捉え直す視点が得られるのも、大きな価値だと思います。都立大ビジネススクールは、少人数での濃密なディスカッションや、修士論文を通じて思考を深めるカリキュラムに特徴があります。「今のままでは足りない」と感じている方には、自らを見つめ直す絶好の機会になると思います。迷っている方には、ぜひ一歩踏み出してみることをおすすめしたいです。

現役学生の構成（2025 年 4 月現在）



MEc (Master of Economics) Program 経済学プログラム

本学大学院経営学研究科では、2018 年度から新たに経済学プログラム（MEc）を開設しました。取得できる学位は修士（経済学）（Master of Economics）です。MEc プログラムでは、近代経済学と歴史からのアプローチに重点を置いており、スタッフの多くは、これまで学術研究に携わり経済学や関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者です。また本プログラムは既に社会人だけではなく、さらに経済学を深く学び探求してみたいと思う大学生にも門戸を開いています。

キャンパスは MBA プログラムならびに MF プログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBA の院生も、MEc の科目の多くを履修することができます。

MF (Master of Finance) Program ファイナンスプログラム

本学大学院経営学研究科は、東京都の成長戦略の一環として、グローバルに活躍できる高度金融専門人材を養成するために、ファイナンスプログラムを 2016 年度に開設しました。取得できる学位は修士（ファイナンス）（Master of Finance）です。最先端の金融工学を基礎とするファンド・マネージャー、クォンツ・アナリスト、リスク管理者の養成に重点を置きます。国際的水準の教授陣による最先端のカリキュラムを提供し、国際金融都市のアカデミックな拠点を形成していきます。

キャンパスは MBA プログラムならびに MEc プログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、多くの講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBA の院生も、MF の科目の多くを履修することができます。

From Alumnae and Alumni

修了生の声

—学び終えて思うこと—

旭化成ファーマ株式会社
旭化成医薬科技（北京）
有限公司
董事長兼總經理

高橋 友輔

理論に立ち返る MBA への挑戦

会社で組織構造改革やマーケティング戦略策定プロセスの再構築に携わる中で、「戦略」や「組織」といった経営の根幹に関わる論点に直面する機会が増えました。専門書やセミナーを通じて学びは続けていたものの、得られる知識はどこか表面的・断片的で、限界を感じるようになっていました。実務にすぐ役立つ「明日使える知識」ではなく、それらを支える理論に一度立ち返ってみたい——そんな思いから、体系的に経営を学び直す必要性を強く感じ、MBA 取得を志しました。都立大を選んだのは、理論を追求するのに最適な修士論文の執筆がカリキュラムに組み込まれていたことに加え、経営組織論や戦略論といった関心領域の教育が充実していると感じたためです。さらに、社会人にとって通いやすい立地や学費の手頃さも、大きな後押しになりました。

論理を磨いた 2 年間、そしてその先へ

入学後、1 年目は授業を通じて、学問として経営に向き合う姿勢や、研究を進めるための基礎として、論文の正しい読み方や考え方から徹底的に叩き込まれました。2 年目には自らの研究テーマと向き合い、関心領域の原著論文を丹念に読み込みながら構想を深めていきました。担当教員の先生には、ロジックを何度も見直すよう指導いただき、一文一文に意味を持たせるまで推敲を重ねました。厳しくもありましたが、その分、論文を書き上げたときの達成感はひとしおでした。会社において、それらの学びを基にした組織・戦略変革提案では、自身の言葉にも説得力が増したと実感しています。余談ですが、卒業研究の内容を日本マーケティング学会で発表する機会を得て、ベストオーラルペーパー賞をいただくこともできました。理論に触れ、自分で思考し、「かたち」にしていったこの 2 年間の経験は、知識以上の財産として自分の中に残っています。

証券会社
公開引受部勤務
マネージャー

池田 晋平

入学の動機

私は証券会社において企業の株式上場を支援する部署に在籍しています。企業が株式を上場するには、安定した事業の成長と上場企業として情報開示や不正を起こさせない内部管理体制の構築等が求められます。よって、その支援をするには、金商法や取引所規則の理解、並びに法務、会計、ファイナンス、ガバナンス等の幅広い知識が求められます。テクニカルな知識は巷に溢れる書籍等を読めば身に付けることができるかもしれませんが、しかし、不確実な世の中において事業の成長性を理解する力をいかに培うかは難しいテーマだと感じていました。また、上場を果たすまでには年単位のプロジェクトになることが通常であり、その間、関係者との間で必ずしも正解のない議論をすることがよくあります。そこで常に求められることは論理的な思考力と周囲を納得させるための伝える力です。大学院入学時はコロナ禍でした。40 代後半の私に残された時間軸の中でいかにキャリアに向き合うべきか考えた故のひらめきが東京都立大学 MBA への進学でした。何もしなければ時間が単に過ぎることが明らかである中、ここに進めば前に進むための道が開けるのではないかと。

理論と実践の往復から「前へ」

本学には専任教員の下で入学者に深い学びを提供するための豊富なカリキュラムが用意されています。また、少数精鋭である中、ダイバーシティを地で行っており、学生は年齢、男女、職業全てバラバラでした。但し、皆社会人であり、学びに真摯であるという点においては共通でした。学びに年齢は関係なく、私自身も一回り以上年下の仲間と多くのテーマで議論を重ねることで大いに刺激を受けました。修士論文は、会計不正とガバナンスをテーマにしたものを執筆しました。私は学部時代に論文を書いたことがありませんでしたが、論文執筆にあたっては、実務界でも高名な先生から直接ご指導を受ける機会を得ました。先行研究を読み込み、リサーチスペースを見つけ、仮説を構築し、収集したデータを統計分析した上で考察する研究は、容易に結果が見えない中で探索を繰り返す、およそ楽な作業ではなかったものの、限られた時間の中で一定の成果をまとめることは今振り返ってもとても貴重な経験となりました。大学院に通ったからと言って必ずしも道が開けることはありません。机上で理論だけを学んでも意味がないと思います。理論と実践を往復することで、先の見えない不確実な時代の中で前に進むことができるのではないかと思います。また、大学院を修了しても学びに終わりはありません。前に進むために学び続けること、これが、私が本学で学んだ一番重要なことだったことかもしれません。

富士通コネクティッド
テクノロジーズ株式会社
サービスイノベーション
事業部

本田 亮

自分の将来を具体化するラストチャンス

私は工学系の大学院を修了して大手電機メーカーに就職し、将来に不安を抱くことがないまま研究活動や製品開発に邁進してきました。しかし、市場は変化し事業構造も変えていかなければならない時代を迎えています。私自身も事業統合や分社化を経験し、新規事業創出や投資家視点での判断が現場に強く求められるようになってきたことに不安が募っていきました。また、ジョブ型雇用の導入や企業内高齢化の対応など人事制度や雇用制度も変えていかなければなりません。組織行動論や人的資源管理の知識を体系的に学び、自分自身をアップグレードしなければならないという想いが高まってきました。加えて、年齢を重ねるにつれて公共活動や社会貢献を意識するようにもなっていました。「自分の将来を具体化するラストチャンス」という決意をし、公立大学である東京都立大学大学院のビジネススクールの門を叩くことを決めました。

現実の課題に論理的に対処する実践力の養成

修士論文を書き終えて感じたことは、「修士論文の執筆は、問題を深く考え抜き、説得性のある理論を構築する訓練である」ということでした。振り返ると、当初の研究計画書で描いた課題は漠然としている一方で、近視眼的に結論を導こうとするアプローチが見え隠れしたものだったと思います。1年以上にわたる研究において、専門書や先行研究論文を読み込み、最新の調査データや統計データから事実を一つひとつ拾い上げ、事実から問いを掘り下げることによって、仮説を説明する理論のフレームワークを作っていくプロセスを学びました。ゼミでは「手がかりを見つけること」、「事実にも潜む問いに気づくこと」を丁寧に指導いただきました。修士論文の事例インタビューのシナリオは理論を裏付けるための具体化された内容となりました。このプロセスは講義では得られないものです。実際のビジネスシーンでは不確実な事態への対応が求められます。修士論文の執筆では、学術的な意義に加えて現実の課題に論理的に対処する実践力が少なからずとも養われたと思います。

大手電線メーカー
組織：経営企画室
IR グループ

近藤 倫子

経営学という武器を身に付けたい

近年、IRを取り巻く環境は劇的に変化しています。特にコーポレート・ガバナンス、気候変動対策、人的資本など、開示が求められる分野は拡大の一途をたどっています。私もIR担当としてESG情報の開示に取り組んでいましたが、人的資本や知財など無形資産の価値を定量化し、投資家に説得力のある形で提示するための理論的裏付けと分析力が不足しており、説明責任を十分に果たせていないのではないかという課題を抱えていました。

そんな折、経営戦略やコーポレート・ガバナンスに関する書籍と出会い、課題解決には経営に関する幅広い知識が必要だと痛感し、MBAへの挑戦を決意しました。

都立大大学院は少人数教育を強みとしており、最先端の研究を行う教員や多様なキャリアを持つ学生と議論を重ねることで、思考力と実践力を高められると考え、入学を志しました。

二年間で得たこと、残った課題

入試時に提出した研究計画書では、ESG活動が企業価値に与える影響を分析することを修士論文のテーマに掲げていました。しかし、授業で多様な論文を読むうちに当初のテーマが漠然としていることに気づき、最終的には社外取締役の在任期間と企業価値の関係を分析することにしました。

論文執筆と仕事の両立は想像以上に大変でしたが、論文の執筆をする中で、感覚的に捉えていた課題を理論とデータで検証できる“武器”を手にしたことは大きな財産です。

一方、執筆過程で自らの知識不足も痛感しました。二年間では経営学の広大な領域を網羅するには時間が足りず、とりわけ理論の実証に不可欠な因果推論の深い理解には課題が残りました。MBAは修了しましたが、実務で得た疑問を研究につなげ、その成果をIR戦略につなげていく好循環を構築したいと考えています。学びには終わりはないという先人の言葉を胸に、大学院で得た知見を祖に、自己研鑽を続けていきたいと思っています。

Entrance Examination

— 入試関連情報 —

詳細については、必ず公式の募集要項でご確認ください。

募集要項は下の URL、または QR コードのページからご覧いただけます。

■ 募集定員

経営学専攻：50 名（経営学プログラム、経済学プログラム、ファイナンスプログラムの合計）

経営学プログラムでは 30 名程度を予定しています。募集定員に満たない場合でも入学を許可しないことがあります。

■ 選抜方法

選抜は 9 月と 2 月に実施予定。

提出された書類と本研究科で実施する学力試験（筆答試問、口頭試問）の結果により総合的に判断して決定します。

■ 納付金等（予定額）

入学科：東京都の住民…………… 141,000 円

その他の者…………… 282,000 円

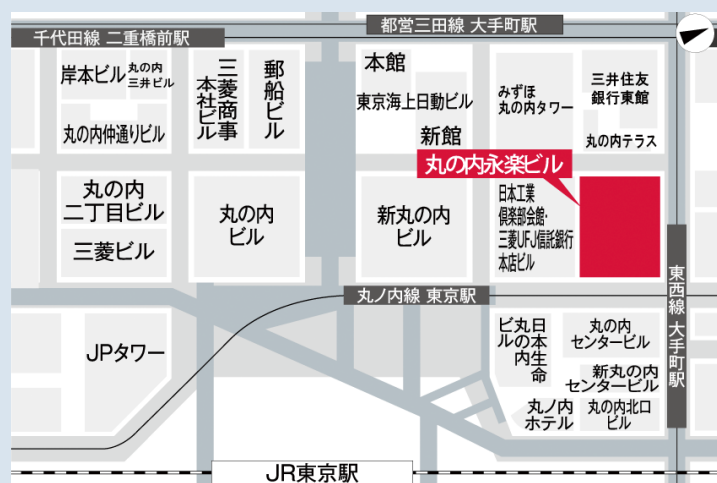
授業料（年額）…………… 520,800 円



AccessMap

東京都立大学 丸の内サテライトキャンパス

東京都千代田区丸の内 1-4-1
丸の内永楽ビルディング 18 階
TEL. 03-6268-0521



入試関係のお問い合わせ先

東京都立大学管理部 | 文系学務課 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL.042-677-1111（内線 1715、1716）

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット
の方はコチラから

